

自分には
エネルギーがあることを
身体ごとで分かってほしい！

巻頭特集

インタビュー

(明治大学文学部教授)

齋藤 孝
さん

プロフィール

1960年 静岡県生まれ
1981年 東京大学教養学部文科一類入学
1985年 東京大学法学部卒
東京大学大学院教育学研究科
学校教育学専攻修士課程入学
1994年 明治大学文学部専任講師
1998年 明治大学文学部助教授
2003年 明治大学文学部教授
専門は教育学、身体論、コミュニケーション論

(写真提供：草思社)

「知情意体」、
特に「体」を大切に

「知性」「情感」「意志」「身体」を全体として伸ばしてほしいけれど、特に身体を使うという
んな学習ができると思います。音読するとか
思い切った文字を書いてみるとか、
そういったことをやって、自分にはエネル
ギーがあるんだということを身体ごとで分
かってほしいんです。

子どもたちのエネルギーというのは、こち
らが思っている以上にあります。小学生時代
だと、好きなことをしているとパワーが出る
と思うんです。だから好きなことを見つけて
そこにパワーを思い切り出すということをや
ってみてほしい。そうすると、「この世に
生きていることが楽しい」と思っようにな
ると思います。

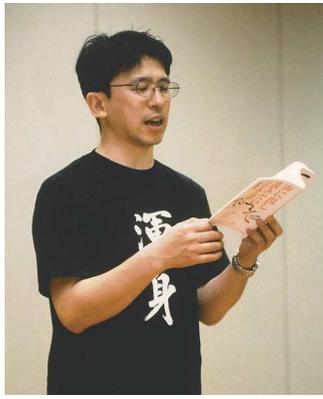
日本の教育水準の高さは、
小学校の先生方のおかげです。

小学校の先生というのは、子どもたちにとってすごく大切ですから、子どもたちが安心して身を預ける存在であってほしいと思うんですよね。私は日本という国は、日本の小学校のレベルの高さでここまでよい国になったと思っています。これは事実なんです。

日本の小学校教育・初等教育というのは非常に水準が高く、先生の質も高く、それで国民の基礎学力が非常に高くなっているんです。これだけの豊かで安全な国ができています。世の中にいろんな仕事がある中でも、小学校の先生は非常に大切な仕事だと思っていますので、頑張っていたきたいと思います。

日本の教育は少しも間違っていないので、あまり浮き足立たずに、くりかえしてドリルをやるように、しっかりとトレーニングを子どもたちにはさせてほしいと思います。

日本の学力というのはどの年代をとっても、国際的にはトップクラスなんです



ね。それに、この国の現状を見てもどう考えても間違った国ではありませんよね。だからこの基礎学力のトレーニングは、間違っていたという事はないです。そのところをつい、**今までの教育では古い**、とか言ってしまうがちですけれども、そんなことはなくて、教科書を中心にまじめにきっちりやっていくことは大事なことでと思います。

学習内容を「これはすごい！」と
驚きをもって語る先生に。

子どもたちの前に立って授業をするときに、**「これはすごいんだよ！」**という驚きをもって語ってほしいと思います。例えば算数の問題でも、**「これをやるよ、こんなふうに分けてやろうんだよ」**とか、**「三角形の三つの角を足すと180度になる。どんな三角形でも180度だ」というのはすごい！** ちよつと測ってごらん分度器などで測ると、みんなそうなるね。角度の書いていない三角形でも内角の和は180度だと分かっちゃうよって**いうのはすごいよね**、というように語ってほしいです。

あるいは、理科で光合成の学習をするとき、**「光合成ってすごいよね。これがなかったら大変なことになるね」**。また、国語でも、**「平仮名ってすごいよね。平仮名がなかったらとても困るよね。平仮名を發明しちゃうんですけど、すごいよね」**。それから社会科でも、三権分立がありますよってことだけじゃなくて、**「三権が**

分立しているって何ですか、いいか分かる？ **三権が分立していないと独裁者が生まれて国がやりたい放題やられちゃうからなんだよ**。」

そのように言ってみると学問っていうのは、全てすごいことで成り立っているんですよ。ですから、**「こんなことが分かるってすごいよね」**。みたいな興奮をもって教えるべきなんではないかと思う

んですよ。全ての内容をそういうふう伝えてほしいというのが願いなんです。当たり前のように見えることも全部驚くということですね。

小学生は取り分け、新鮮な気持ちでいますので、子どもたちが家に帰ったら、**「これってすごいんだよ！」**と、家の人に言いたくなってしまうような授業にしようと思つています。





ぜひご活用いただきたい
二つの学習方法を紹介します。

【授業で使える運動の組み合わせ】

ジャンプして身体をほぐすという運動と、ゆっくり口から息を吐いて気持ちを落ち着かせるという運動、この二つを組み合わせ、授業中にどんだん組み込んでやるとよいと思います。アイデアを出させたいときや、子どもたちがよんだときは、軽くジャンプして活性化させます。逆に、子どもたちの気持ちがざわざわとして何となく落ち着きがないようなときには、息を吸って止めて、長く吐いてもらい、落ち着かせます。私は身体の

研究が長かったので、教育方法というのは身体が中心だと思っている、その二つの運動を日々の授業に活用してほしいと思います。

【アウトプット学習法】

先生が十五分くらい話をしたら、子どもたちに板書を写すだけじゃなくて、メモを取ってもらうんですね。これは**大事な言葉です。はいメモして**。と言って、三つくらい大事な言葉を入れながら話します。例えば、**光合成というのがあります。これがなかったら地球上から酸素が足りなくなっちゃうから、光合成は大変大事なものです。**このようなことを先生が十五分くらい話したら、子どもたちで二人一組になって、一人が先生役になって先生のように話す。片方は**「へえ、そっなんだ。」**というように聞く。そしてこれを交代してやる。二人で最後、メモを見合いながら、抜けたところを補い合うというようなことをするんですね。これをやると、聞くときの構えが、すごく積極的になるんです。ただ聞くのではなくて、次に自分が先生役となつて話さなきゃいけないということが、聞く姿勢を積極的にするんです。アウトプットを前提としたインプットでなければ、学力は本当には身につかないという考えです。これは社会に出ても同じことで、**次は自分がやるんだ!**。と思つてやらなければだめなんです。そういう意味では、アウトプットを中心に据えるような授業の仕組みにしてほしいと思つています。

アイデアを出すことが
価値を生む根本です。

この**「アイデアを出す」**ということこそが面白いし、実は価値を生むんです。トラブルがあったときもアイデアで解決するし、いろんな会社で利益を上げるためにもアイデアが大事で、研究するにもアイデアが大事です。でも、アイデアを出すことに日本の教育は評価が低かったですね。東大の入試でもアイデアを出していたら受からないんですね。入試ではアイデアまでは求められない。もつとアイデアが評価されるべきだと思つています。

アイデアを出す方法として、四人のグループをつくつてアイデアを出し合つて、アイデアが出た瞬間に拍手をして褒める・祝うということを大学生の授業では毎時間やっています。

「このテーマで何かいいアイデアない?」といつて必ず二つずつメモさせて言わせるんですね。で、何かアイデアが出るたびに全員で**「おおー!」**って、その瞬間を祝うようにします。新しいものの方とかアイデアとか出たときには祝う。くだらないものでもよいから何でも言ってみようという、また、それを積極的に出す勇氣が出やすい空気を教室内で作つてほしいと思います。「アイデアを出すつてすばらしいんだ!」というメッセージを先生は子どもたちに伝えてほしい。そのときにみんなで拍手して祝うという習慣をつけてほしいですね。

齋藤先生でも、
嫌いだつた教科や、
嫌だつたことは
ありましたか?



嫌いではないですが、苦手な教科というのがあつて、音楽のリズム・テンポがよく分からなかつたんです。カスタネットのリズムにあわせて、音符をかいていく課題のときに、他の友だちは結構できるのに、僕はできませんでした。でも音楽っていうのは非常によいものなので、嫌いというのではないんですが、自分ができるというものも結構あるなどということを感じました。

あと僕は、給食が苦手だつたんですね。何か苦手なものが出るとなかなか進まなくて、どうやって隙を見て戻そうかとか狙っていました。特に、シイタケとか中華風の旨煮みたいなのがダメでした。シイタケはぬめつとして気持ち悪くなつちやつて、今でもちよつとね。食べられるようにはなりませんでしたけどね。